

# 安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

第14号



## 【目次】

- ❖ 平成22年度概算要求研究プロジェクトの採択
- ❖ (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の平成22年度競争的公募研究の採択
- ❖ 「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」プロジェクトが終了
- ❖ センターの活動紹介（教育事業、GIS公開研究会）
- ❖ センターからのお知らせ（公開セミナー、表彰）、編集後記

## 文部科学省特別経費（大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実）

### 「社会インフラの脆弱性診断・回生技術確立と総合公共システム管理への展開」の採択！

文部科学省特別経費・大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実に「社会インフラの脆弱性診断・回生技術確立と総合公共システム管理への展開」を申請し、採択されました。本研究プロジェクトは、平成22年度～平成24年度までの3年間の予定で実施されます。本学が有する安心・安全とインフラ管理等に係る蓄積された資源を有効に活用して、老朽化が進む構造物・施設や各種社会インフラに対して、その脆弱性・健全性を簡易且つ的確に診断・評価できる技術を確立します。加えて、原価管理に基づく社会コスト低減や日常活動に対する影響をできるだけ避けることができる総合的公共システム管理手法

を文理融合、地域産学官連携を通して確立することを目的としています。その成果を活用した人材育成や地域社会への移転を通して社会に貢献することを目指しています。当センターをプロジェクト事業の実施拠点とし、本学の国際社会科学部、工学部、環境情報研究所の教員が緊密に連携して事業を推進します。神奈川県、横浜市等の自治体に加えて、社会インフラの維持管理に係る関連企業等として新日本製鐵(株)、(財)電力中央研究所、高圧ガス保安協会、(株)IHI 検査計測等との連携を一層強化して、本学の特性を活用しながら本研究プロジェクトを推進してまいります。

## (独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究

### 「陸上タンク開放検査周期の合理化に関する調査検討

#### －底板コーティングの余寿命評価法と風荷重に対する浮屋根強度信頼性評価システムの開発－の採択！

平成22年5月、(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構の競争的公募研究「陸上タンク開放検査周期の合理化に関する調査検討－底板コーティングの余寿命評価システムの確立と風荷重に対する浮屋根の耐力評価－」(代表：関根和喜特任教授)に採択されました。不可欠な資源である石油の安心・安全な備蓄のための研究であり、当センターによる5年連続の受託です。当センターが中心となって、5月20日より調査・研究を

開始しております。基礎から応用、実用にも及ぶ幅広い領域が対象となるため、学内の複数部局や包括連携先であるIHI株式会社等とも連携して課題に取り組んでいます。昨年度の学長裁量経費及び教育研究高度化経費を活用して、部局を横断して実施した社会インフラの課題抽出・社会コスト低減効果等の可能性評価等について協働して行った研究の成果が、この研究を継続して受託する大きな力になりました。

## 科学技術振興調整費科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進

### 「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」プロジェクトが終了

平成19～21年度に環境情報研究所と当センターを拠点に、関連省庁と連携して推進した標記の大型プロジェクト(代表：三宅淳巳教授、総予算は約2億5千万円)が終了しました。これは、化学物質のフィジカルリスクと短期・長期の健康リスクの双方に着目して、ライフサイクルにわたる多様なリスク情報を収集・評価手法の構築を試みるナショナル

プロジェクトであり、成果はホームページから配信しています。(http://www.anshin.ynu.ac.jp/renkei/)

化学物質管理は、本学の特徴的な分野の1つであり、本研究成果を活かした更なる研究の展開、人材育成への活用についての期待の声も頂いています。今後もこの情報基盤を維持管理・拡充するとともに、新プロジェクトの企画・申請を予定しています。

## センターの活動紹介

### 高度リスクマネジメント技術者 育成ユニット修了式

平成22年3月25日、環境情報1号棟515室において平成21年度高度リスクマネジメント技術者育成ユニットの修了式を行いました。修了要件を満たした修士26名、博士2名に「修了証」が授与されました。修了生各位の今後の活躍を期待しています。



### 大学院生への教育事業について

当センターが担当する教育事業の副専攻プログラム「安心安全マネジメント」平成22年度履修者を募集し、18名から申請がありました。教務委員会で審査のうえ申請者全員の履修が許可されました。

### 公開セミナー等の実施報告

**「第6回 横浜国立大学 GIS・文理融合公開研究会 神奈川拡大流域圏での気候変動に対応したグリーン・インフラ社会、構築のために -時空間情報プラットフォームを活用した地球環境時代の社会システム-」** (3月24日、中央図書館メディアホール)

平成22年3月24日、中央図書館メディアホールにて「第6回 横浜国立大学 GIS・文理融合公開研究会 神奈川拡大流域圏での気候変動に対応したグリーン・インフラ社会、構築のために -時空間情報プラットフォームを活用した地球環境時代の社会システム-」(主催：横浜国立大学、担当：教育研究高度化経費「分野横断・文理融合型地域研究教育を実現する全学的な知的情報基盤の構築と体制づくり」プロジェクト、GCOEプログラム「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」、安心・安全センター、神奈川県拡大流域圏空間情報プラットフォーム研究会、他)が開催されました。

これまでに、異分野(地球科学、水環境、森林生態、土壌生態、農業経済、地方財政、産業経済、都市計画、都市環境、地下地質モデル、水理、都市気候など)の研究者が集い、文理融合で環境を社会基盤とするこれからの社会システムについて研究を行ってきましたが、秦野市を中心に神奈川拡大流域圏での具体的な展開に着手することになり、国際的な視点もふまえて議論しました。学内外から56名が参加しました。

## センターからのお知らせ

### 安心・安全の科学研究教育センター 公開セミナー 「水素社会構築の展望と安全」

主催：安心・安全の科学研究教育センター

日時：平成22年6月21日(火) 13:30~16:40

場所：教育文化ホール 大集会室

参加費：無料(100名程度募集)

内容：①「持続型社会を目指すグリーン水素への展望」横浜国立大学大学院工学研究院教授・太田健一郎 ②「低炭素社会に向けた都市ガス事業の取り組み」日本ガス協会常務理事・久徳博文 ③「水素ガスの安全」横浜国立大学大学院 環境情報研究院教授・三宅淳巳 ④「水素容器の安全」高圧ガス保安協会 機器検査事業部審議役兼高圧ガス保安室長・横浜国立大学客員教授・竹花立美

参加申込：氏名、所属、住所、電話・FAX番号、E-mailをご記載の上、当センターまでFAXまたはE-mailでご連絡ください。

### 当センター教員が表彰されました

| 受賞名             | 授与機関               | 職名   | 氏名   |
|-----------------|--------------------|------|------|
| 創立60周年<br>記念表彰  | 社団法人<br>日本溶接協会     | 客員教授 | 小林英男 |
| 平成21年度<br>学会功績賞 | 社団法人<br>石油学会       | 特任教授 | 関根和喜 |
| 平成21年度<br>北川学術賞 | 特定非営利活動法人<br>安全工学会 |      |      |



小林英男



関根和喜

## 編集後記

- ❖今年度はより活発なセンター活動を目指します。(か)
- ❖6月は環境月間(環境省)です。(す)
- ❖今年度の公開セミナーも話題のテーマで注目です。(な)

### 安心・安全の科学研究教育センターニュース

第14号 2010年6月11日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

TEL: 045-339-3776

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: [anshin@ynu.ac.jp](mailto:anshin@ynu.ac.jp)